

虚子記念文学館投句特選句・令和七年三月

稲畑廣太郎 選

なよなよと吉野桜の芽立ちかな

新潟 安原 葉

美容師のチヨキチヨキチヨキと春日ごと

静岡 いたまき 苙

蔦の芽の風のさざめき聞く館

兵庫 黒田千賀子

伊賀街の老舗昭和の田楽屋

三重 松村咲子

春光へ羽をひろげし譜面台

東京 桜鯛みわ

日が差せば岸边耀ふ春の水

徳島 多田まさ子

残雪の富士を見てより寝落ちけり

東京 荒川ともゑ

館長の三年の歩や風光る

神奈川 進藤剛至

本堂の屋根を早春転びをり

兵庫 池田文子

とんとんと起こしてほしい春休み

滋賀 太田 慈

(青少年)

# 入選句・令和七年二月

寒椿たひらかに注ぐ逆さ水	大阪	押見げげげ	炊きたての湯気に海苔の香匂ひ立つ	兵庫	高野さち
あとがきのページに栞クローバー	埼玉	小田毬藻	雛飾る作業の匂やかなる時間	兵庫	深尾真理子
芦屋句座六甲全山薄霞	兵庫	谷本逸歩	霾天の粒立つかげを載せ御門	岡山	石井宏幸
雪のひままるくまあるく此処彼処	石川	辰巳昌彦	けふ摘みてけふの枸杞飯杣の宿	香川	葛原由起
鳶の芽や絡み所を足場とし	三重	中島庸子	乗り継ぎを違へのんびり春の旅	大阪	西尾浩子
枯色の復活蒼き鳶芽吹く	奈良	堀田ますみ	久闊の友に春寒解けゆく	兵庫	涌羅由美
二月堂麗人囲む春火鉢	奈良	堀田建夫	薄氷の星の欠片を閉ぢ込めし	香川	三宅久美子
落椿浄土の庭となりにけり	大阪	多田羅紀子	車窓より須磨の海苔舟二つ三つ	兵庫	藤丸千香子
片栗の花仰向けになりたがる	三重	池本準一	利休忌や古りし茶杓にある美学	兵庫	中村恵美
啓蟄や古都にあふるる異国人	大阪	立入宮子	野遊の一步心は百歩先	石川	辰巳葉流
ICU六日目の妹凍返る	兵庫	森岡喜恵子	鎌倉の花の忌日へ心馳せ	大阪	林 曜子
ひと枝をマリアに近く濃紅梅	兵庫	吉田知子	古酒の名を一つ覚えし島の春	兵庫	辻 桂湖
行列の椿餅なら並びもす	大阪	藤本公子	椿咲き海岸線の仕上がりぬ	兵庫	岸川佐江
淡き色纏ふマネキン春の街	石川	白根寿子	山ホテル裏の隠沼水草生ふ	兵庫	永沢達明
真黒に灰をまぶして若布干す	兵庫	槌橋眞美	湧き立つや恋も水音も春塵も	鳥取	前田 千
鳶の芽の絡む高窓届かぬ手	兵庫	川村ひろみ	春の雪日差しへすでに雫して	奈良	河村久美子
春の雪思はせぶりにちらちらと	兵庫	船山美貴	風を愛で紅梅に立つ二三人	鳥取	椋 則子
八幡宮のくれなるの塵実朝忌	奈良	山口廣世	汀子師の俤ありし雛かな	群馬	木暮陶句郎
埴輪の目山火のほむら離れざる	大阪	北上美佐子	雛に会ひ雛に逢ひたき人のこと	兵庫	玉手のり子
三月の光あまねく虚子館に	兵庫	平田 恵	芽柳のひとつひとつに銀の雨	兵庫	池田雅かず
拭けばすぐ飛びつく春の埃かな	兵庫	山之口倫子	雅な名並べ百種の玉椿	大阪	若林友子
色数多スイートピーに染む遺影	大阪	谷本房子	初蝶来去年よりかなり遅れけり	奈良	堀ノ内和夫
やうやくに緩びし心梅の花	兵庫	小柴智子	ものの芽の日ごとに色の生るる館	大阪	徳岡美祢子
啓蟄や地球にもある蕁麻疹	兵庫	上岡あきら	うず高き深雪の陰や陽の見えず	愛知	海神瑠珂
寄せ書にあの人の名も卒業す	兵庫	宮本露子	灯を消してゐても明るき雛の間	京都	山崎貴子

学舎縫ふ小流れの音水温む

大阪

杉山千恵子

絵に描いたやうな三寒四温かな	兵庫	奥田好子	菜の花や雨の句の席匂ひ立つ	兵庫	入谷千恵子
春寒のタクシー荒く曲がるかな	東京	加那屋こあ	数かぞへ三極の花確かむる	兵庫	高橋純子
優しさを言葉に出来ず春の雨	東京	仲 晶彦	麗らかな館に椿子ものがたり	兵庫	藤井啓子
糸桜余白雄弁なりしかな	大阪	須知香代子	学究のこゑ有る古道青き踏む	兵庫	西村みどり
啓蟄や吾にも蠢く志	大阪	河辺さち子	法王さまの病やすかれ花ミモザ	兵庫	岩鼻絹子
寒椿背にプラタナス魔女のごと	兵庫	重光 透	黄水仙汀子師偲ぶ遺庭かな	兵庫	柄川武子
戦より平和を願ひ鳥帰る	京都	西村やすし	三月の空気震はせチェロ響く	兵庫	河合美恵子
春泥や跳ねて君への橋となれ	兵庫	足立朱麻	たんぽぽや終業の鐘遠くから	兵庫	太平楽太郎
うず高き深雪の陰や陽の見えず	愛知	海神瑠珂	虚子の書や「立」一文字の穿つ春	兵庫	藍創千悠子
書も伏せて春雨育つ音を聴く	兵庫	松本 敬	たんぽぽのアスファルトより生まれけり	兵庫	松本 守
よそ事をかんがへながら地虫出づ	三重	水越晴子	ころころと友の消しゴム大試験	愛媛	星月彩也華
きゅつと喝入る啓蟄の瓶の蓋	大阪	棕本望生	春や今湖に突き出す城の跡	滋賀	近江堇花
畝はみ出でし莖立の一本気	兵庫	二瓶美奈子	初めての文字の反転あたたかし	兵庫	恵島祥一朗
時を刻みし有馬離宮の雛かな	兵庫	小林昌子	春北斗うまくゆかないことばかり	熊本	貴田雄介
乾坤の扉全開春の雷	兵庫	日下富貴子	どこまでも枯れることなき虚子の花	神奈川	小林 心
亀鳴けり邯鄲の夢覚めぬ間に	兵庫	福田光博	咲くよりも散るを愛でゐる桜かな	和歌山	中島紀生
春宵や犬なき小屋に我孤独	神奈川	斉藤苑子	桜餅選る店先や小糠雨	兵庫	キートスばんじょうし
大琵琶を撥つてをり蜩搔き	兵庫	岩水ひとみ	宇治の春訪ねて源氏読み終へり	兵庫	伊集院秀樹
ミモザリース厳しすぎるよ日本人	兵庫	風待ラテ	継がれゆく白線流し飛驒の春	兵庫	阿曾宏之
三月や母の歩行器蛇行して	兵庫	西尾登志子	あまやかに浮き葉に落つる春の雨	愛知	小野 薫
啓蟄や芝居一座の児は隠れ	兵庫	高市敦之	それぞれの嘘を濯ぎて木の芽雨	神奈川	平野孤舟
近づけばねじれたテープ蜥蜴出づ	滋賀	太田怒忘	煙草吸ふ庭師剪定終へにけり	奈良	豚々舎休庵
三月や豪華客船入港す	兵庫	山崎渺美	老木に花咲かせたり涅槃雪	東京	宮村土々
雛納祖母の手筈を受け継ぎて	兵庫	金田八江子	桜咲く老木のまだ生きてゐる	石川	伊東弥太郎
ちらと見る男雛の位置を直す夫	兵庫	伊藤秀子	二百人へクラブ紹介入学式	京都	杉森大介
髪濡れて駆けこむ軒や菜種梅雨	兵庫	松浦百重	やうやうにくれなゐるほどき牡丹の芽	神奈川	金子三奈乃